



LayerXの取組とプログラマブルマネーの未来



LayerX, Inc.

LayerXの取組

自己紹介



福島 良典 (ふくしま よしのり)

1988年生まれ(33歳)。東京大学大学院工学系研究科卒。**大学時代の専攻はコンピュータサイエンス、機械学習**。2012年大学院在学中に株式会社Gunosyを創業、代表取締役に就任し、創業よりおよそ2年半で東証マザーズに上場。後に東証一部に市場変更。2018年にLayerXの代表取締役CEOに就任。2012年度IPA未踏スーパークリエイター認定。2016年Forbes Asiaよりアジアを代表する「30歳未満」に選出。2017年言語処理学会で論文賞受賞(共著)。

機械学習・CSを研究 → Gunosyを創業・上場 → LayerXを創業(2社目創業)

研究者

エンジニア

起業家

toCサービス

連続起業家

toBサービス

会社紹介

LayerX **すべての経済活動を、デジタル化する。**

会社名	株式会社LayerX(レイヤーエックス)
代表取締役	福島良典(CEO), 松本勇氣(CTO)
創業	2018年 8月1日
従業員数	56名
資本金	31億円(資本準備金含)
事業概要	SaaS事業、Fintech事業、Privacy Tech事業
関連会社	三井物産デジタル・アセットマネジメント (三井物産、LayerX、三井住友信託銀行、SMBC日興証券による合併会社)

LayerXの取組

SaaS

企業活動における業務プロセスのデジタル化を推進するサービスを開発・提供

提供プロダクト

バクラク 請求書

バクラク 申請

バクラク 電子帳簿保存

Fintech

アセットマネジメント事業を合併会社にて展開。法人及び個人向けのサービスを開発・提供予定



MITSUI & CO.
DIGITAL ASSET
MANAGEMENT

Privacy Tech

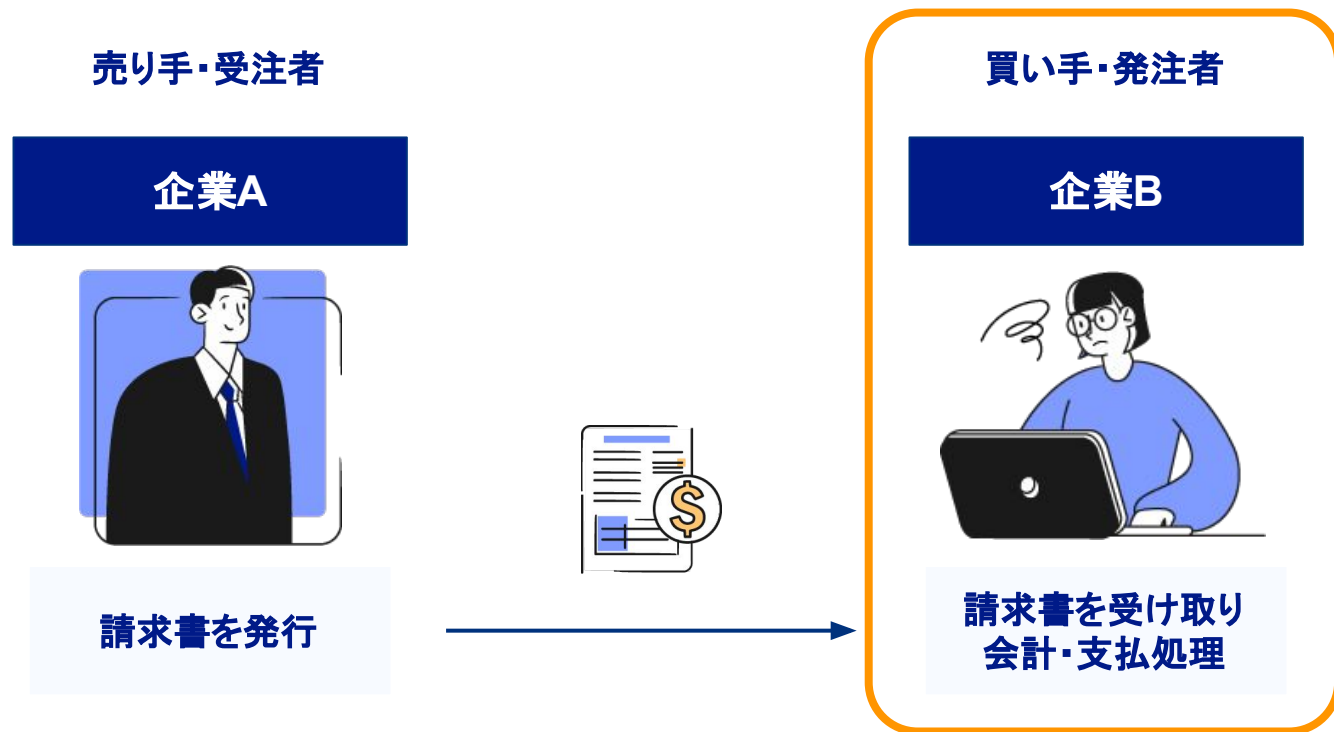
パーソナルデータの利活用とプライバシー保護を両立するプロダクトの提供

LayerX Labs

提供プロダクト

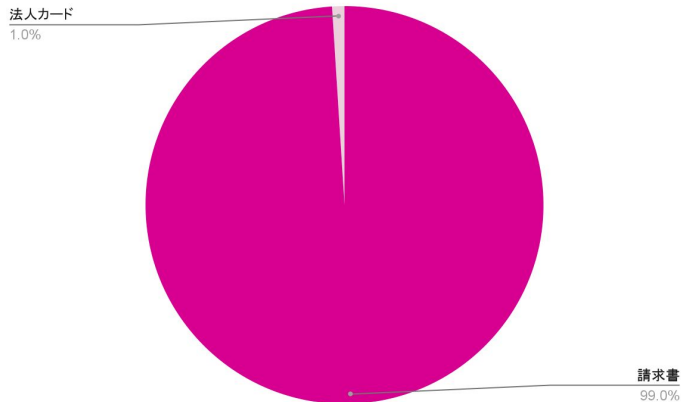
 **Anonify**

請求書「受取」にフォーカス



「請求書受取」は大きな問題なのか？

請求書はBtoB取引の99%を占める



- 日本においてBtoBの取引手法で最大を占めるのは **請求書**
- **請求書受取を制すものが BtoB取引市場を制する**と認識
- 特に非IT企業において、請求書取引の多さは顕著

※ 出所: [「中小企業の事業間決済におけるキャッシュレス化・デジタル化推進」](#)

アナログ業務が残り非効率

紙の請求書やめれば1.1兆円が浮く、経理の悲鳴は届くか

2020.9.30 18件のコメント

奥 貴史
日本経済新聞社

ギフト 印刷 クリップ

御請求書 No. 1234-1234
請求日 2020/09/30

株式会社〇〇〇〇
〒100-0000
東京都千代田区〇〇〇〇
〇〇〇〇-〇〇〇

〒100-0000
東京都千代田区〇〇〇〇
〇〇〇〇-〇〇〇

金額
5000
5000
5000
15000

合計(税込) ¥17,820

品目

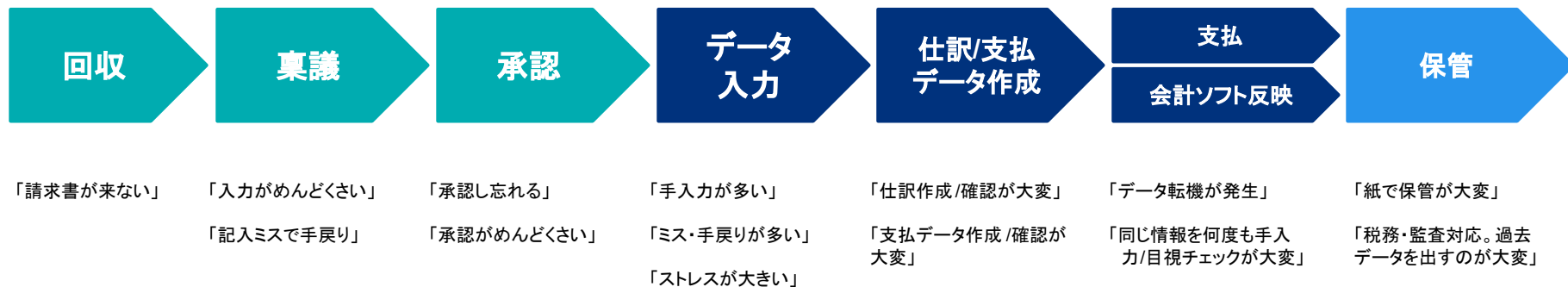
(写真: PIXTA)

日本の企業が請求書を電子化すればいったいどれだけの費用が浮くのだろうか。こんな試算が30日に発表される。

試算したのは「日本の経理をもっと自由に」という約100社の企業からなるプロジェクトと関西大学の宮本勝浩名誉教授。はじき出された数字は約1兆1424億円という巨額なものだ。根強いハンコ文化も手伝いデジタル

紙の請求書やめれば1.1兆円が浮く、経理の悲鳴は届くか 2020/9/30 日経ビジネス

請求書受取の流れとペイン



 デジタルでないことで起こる弊害が多数存在

請求書のアナログ処理を全行程で自動化・デジタル化

従来



LayerX導入後

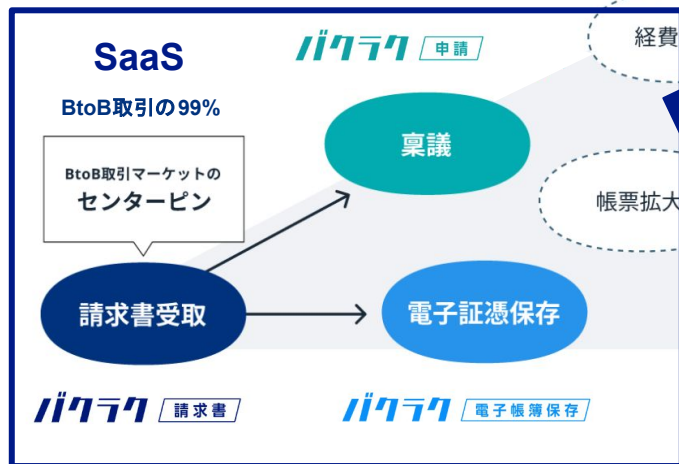


デモンストレーション

請求書受取からBtoB取引のデジタル化へ

BtoB取引マーケットのセンターピンである「請求書受取」から始まり、サービスの提供をBtoB取引市場全体に拡大

それぞれの領域においてその「体験」にこだわり、圧倒的に使いやすいプロダクトを届けたいと考えています。



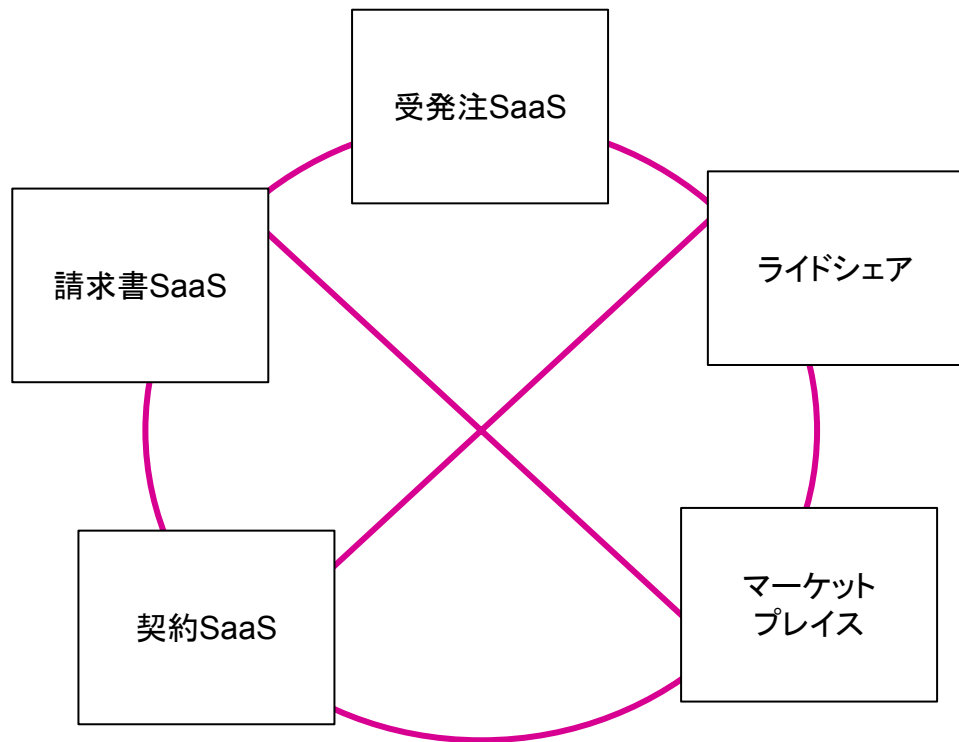
プログラマブルマネーの未来

プログラマブルマネー

× お金がプログラムで動かせること

○ お金がデジタルサービスに簡単に組み込め、「お金を動かす」ための手続きを必要としない

お金の体験がサービス(UX)にとけること



- お金の流れとサービス・業務には分断がある
- お金が行っている上に乗っているサービスはデジタル化が急激に進んでいる
- お金の流れをサービスに組み込むことで、ユーザー体験が更に良くなる

お金が体験にとける、とは

メルカリ



「写真を取る」



「価格やキャプションがサジェスト」



「売れたらメルペイでチャージ、そのまま支払いにも利用」

バクラク請求書



「紙をスキャン・アップロード」



「データは手で打ち出し。仕訳、支払管理は手入力」

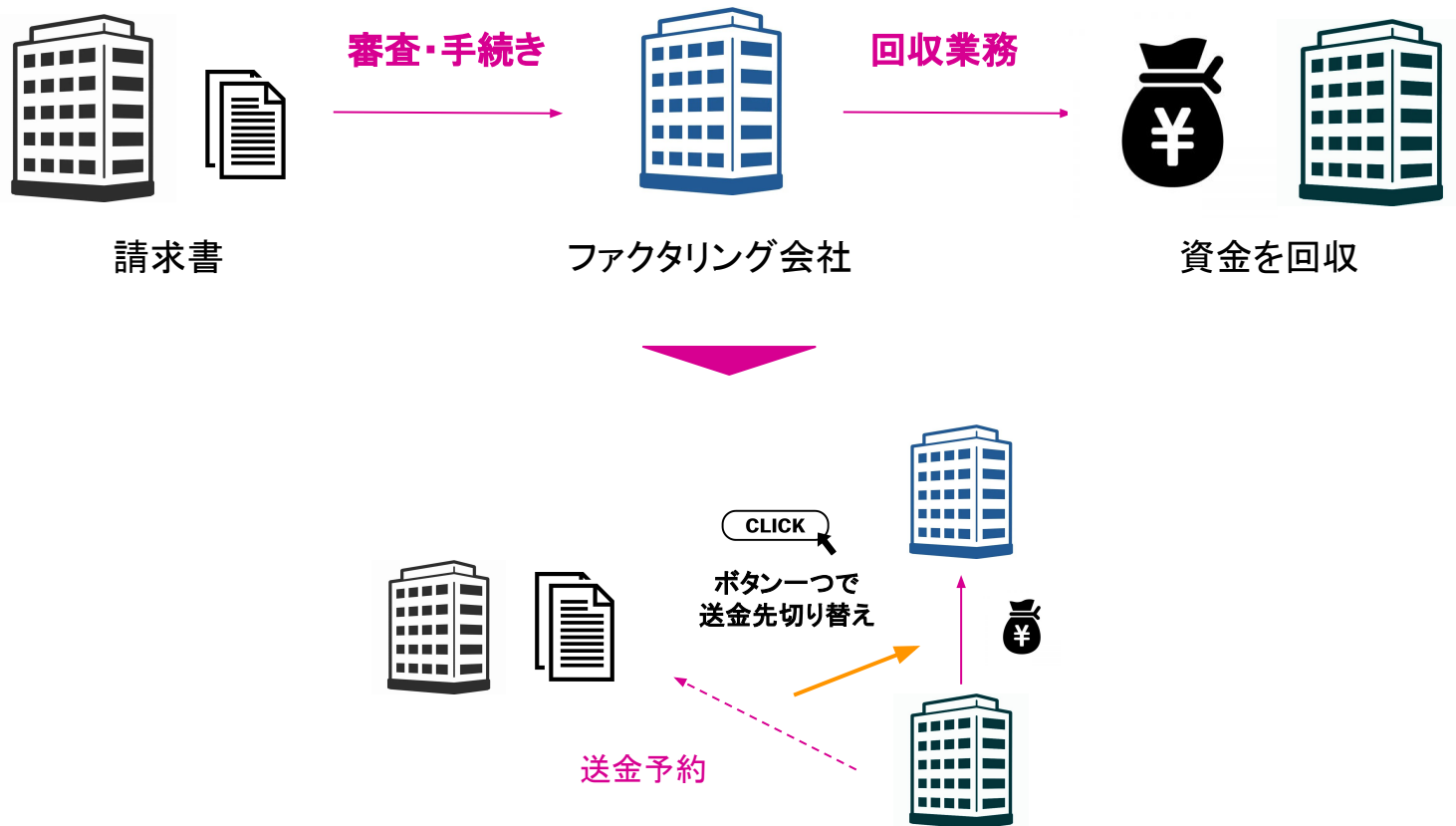


「支払いは都度手動で」

「データは自動で入力。仕訳や支払いデータは自動サジェスト」

「支払いは承認をしたら自動で決済」

例②: ファクタリング



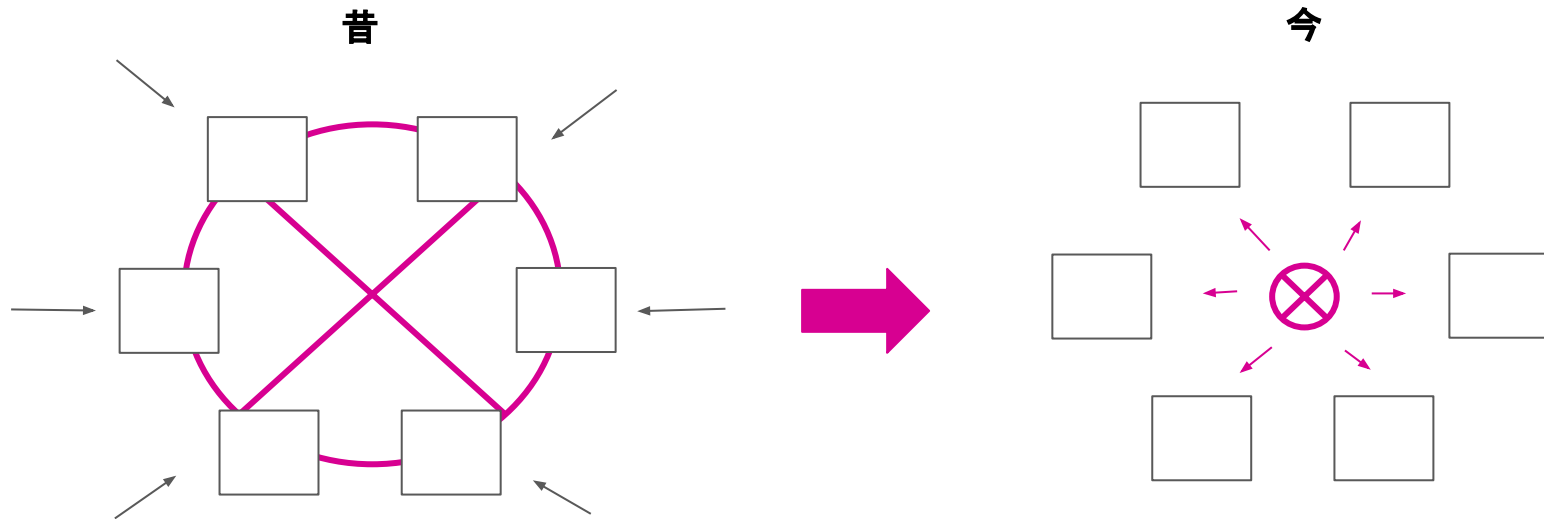
プログラブルマネーの未来を考える上で重要なこと

Developer向けの開発体験。スクリプト一つでお金をソフトウェアにのせられるか？

データの連携性。お金に意味をのせられるか？

決済システムとしての安定性やコンプライアンス遵守を技術的に担保できるか？

プログラマブルマネーへの考え方の変化



お金がネイティブに存在しているネットワークを作り、その上にアプリケーションを作ってもら

(例) VMをもつ決済システムとしてのEthereum, Libra

デジタルに存在しているサービスに、簡単にお金を組み込むことができるDevツール。ただし全体としての決済システムの要件は満たしている

(例) スクリプト一つでソフトウェアに決済を埋め込めるstripe

素朴な問い・論点

銀行APIでいいのでは？

ブロックチェーンは関係あるの？

民間でやればよくない？